

函館マラソン準備状況

～ はじめに ～

函館マラソン事務局です。

函館マラソンの募集期間がこの4月15日で終了しました。おかげさまでフルは3日で定員の4千名に到達、ハーフも4千名に対し約98%と、ほぼ定員に達しました。

とりわけ今回は、遠く沖縄を含む47都道府県全ての地域からエントリーをいただいております。昨年はエントリー実績がゼロであった九州の佐賀県、熊本県、大分県、鹿児島県からも、今回は多くのお客様をお迎えいたします。

このような中、このたび熊本県や大分県を震源とする地震が発生しました。亡くなられた方に哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げます。

九州からお申し込みをいただいた方々にとっては「マラソンどころではない」と、参加を見合わせる方もいらっしゃると思いますが、我ら事務局スタッフ、ご参加いただける皆様にとってマラソンシーズンの最後を飾る大会のひとつであるとの自負のもと、8千名にも及ぶ参加者の皆様が安全・快適に函館マラソンを楽しんでいただけるよう、準備に全力を尽くしてまいります。

さて、この場ですが、悪戦苦闘しつつも本当に多くの方々からご助力をいただきながら進めている函館マラソンの日々の準備状況について、公表できるものに限定して順にお知らせしてまいります。参加者皆様の、日常の話題としてご活用いただければ幸いに存じます。題して「函館マラソン準備状況」。以後、随時更新してまいりますのでよろしくお願いいたします。

～ 第1回 函館マラソンの歴史 ～

「函館マラソン準備状況」の記念すべき第1回目のお題として、函館マラソンの「歴史」を少しだけ紹介させていただきます。函館でのマラソンの歴史は平成3年に遡ります。その頃20代の中盤だった私（※この散文の書き手）は、記念すべき第1回「函館ハーフマラソン大会」の記録係として1枚でも多くの写真をフィルムに収めんと陸上競技場やコースなどを駆け回っておりました。当時、千代台公園陸上競技場は老朽化が著しく、トラックは土、というか粘土。そこに折からの降雨が…真新しいランニングシューズをぬかるんだ土でべとべとにさせながら競技場を後にするランナーの苦々しい横顔、忘れることができません。

それから四半世紀が経過。

号砲とともに614名が出走した第1回大会の開催以来、函館のマラソンは順調にその規模を拡大させ、昨年大会では当初比6倍規模の3,811名が出走する大きな「ハーフ」マラソン大会として成長してまいりました。また、懸案の老朽化した陸上競技場も平成11年には全天候型トラックを有する本格的な第2種公認陸上競技場として新装になりました。

しかし、ハーフマラソンの成長の陰で置き去りにしてきたことが一つありました。

ここで第1回大会の起草案ともいえるべき「函館市のマラソン大会の基本的な考え方」をご覧ください。

大会計画段階の平成2年頃に作成されたこの文書は、第一回大会の開催のみならず、その後の大きな目標が「フルマラソンの実現」であることを、当時の関係者が明快に示したものであり、加えてそこに至る具体的な行動指針も含まれています。

函館市でのフルマラソンの実施は、実は四半世紀に及ぶ課題の解決に向けた取り組みなのであります。

函館市のマラソン大会の基本的な考え方

〔開催趣旨および将来展望〕

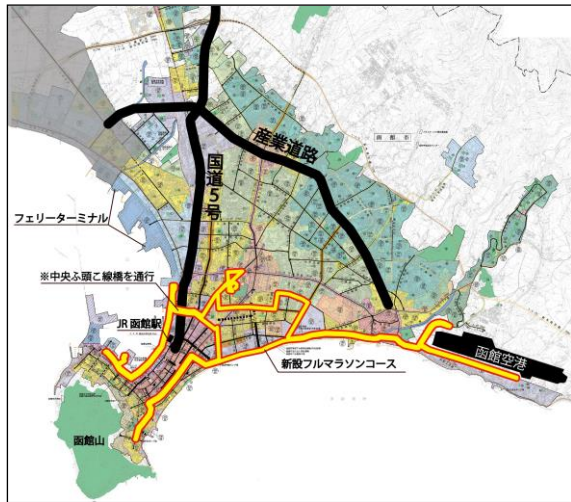
- 社会情勢が急激に進展する今日、健康の維持増進や身体の鍛錬に関心が高まり、スポーツやレクリエーション活動が活発に展開されている。
- このような中で道南地域では本格的なマラソン大会が実施されていないことから、地域の住民は長い間その開催を待ち望んでいた。
- こうした住民要望を受け、スポーツの振興と住民の健康増進、さらには、地域の活性化を図ることを目的として、マラソン大会を開催するものとする。
- 当面は関係機関との協議により諸課題の解決を図りながらハーフマラソン大会を開催し、ノウハウの蓄積に努めるとともに、将来は、全国的な規模のスポーツイベントとしてフルマラソン大会の早期実現を目指すものである。

～ 第2回 フルマラソンのコース造成（前半） ～

第1回でお知らせしたフルマラソンの歴史、お楽しみいただけましたでしょうか？

今回はさらに掘り下げて、これまでなぜフルマラソンが開催されなかったのか、ということを書いてみますね。

ここで皆さん、函館の独特な地形をイメージしてみてください（というか知らない人は知らないですよ…はい、図を添付）。



函館山を要として末広がりに連なる函館市の市街地は、美しい函館夜景を形づくる大切な構成要素となっていますが、その一方で、フルマラソンのコースを設定するうえでは極めて難易度の高い扇形の市街地形状なのであり、それが大きな要因のひとつとなってこれまでフル化が見送られてきた経過があります。また、フルマラソンの実施に向けては所謂「ヒト・モノ・カネ」についてもあわせて解決する必要があります。

このように難題多き状況でしたが、平成23年4月、函館商工会議青年部内に「フルマラソンを地域の経済発展の起爆剤として考え、3年後の開催を目指して行動する」ための組織として若手経済人24名からなるフルマラソン検討委員会が設置され、函館の経済界と行政との意見交換が重ねられたことを契機に、以後、平成24年6月、函館ハーフマラソン大会実行委員会内にフルマラソン検討部会が設置され、関係機関との意見交換なども含めより広範な議論が展開されてきた経過があります。

問題のコース造成については、「海岸線をワンウェイで走るコース」、「新幹線開業を記念して近郊の2市1町を巡るコース」、「新規開通した自動車専用道を使用するコース」など検討部会では様々な案が検討されましたが、交通渋滞の発生など市民生活への影響を最小限に留めるため、関係機関との協議を経て、

- ・産業道路（※通称 正式名称は道道100号函館上磯線）は、またがない
- ・国道5号は使わない

という2つの方向性を定め、絞り込み作業がなされてきました。

ただ、繰り返しますが、問題は函館市の独特な扇形の市街地形状です。この方向性をクリアするのは容易ではありませんでした。（つづく）

～ 第3回 フルマラソンのコース造成（後半） ～

あちらを立てればこちらが立たず…フルマラソン検討部会でのコース造成は難航しました。それは、前回お知らせした「2つの方向性」を維持しつつ、

- ・ 駅、空港、フェリー乗り場など公共交通機関へのアクセスを確保すること
 - ・ コース沿道部で袋小路となる地区を最小限とし、可能な限り迂回路を確保すること
- 加えて、同時開催するハーフマラソンについてもさらなる高速化を図るため高低差を最小限とし、より平坦なコースへと改善すること…などを課題として設定したからです。

これらの解決に向けて、事務局ではフル・ハーフ同時開催のマラソンや海浜部をコースとするマラソンなど各地の大会開催状況を調査しました。そこで出会ったのが「新潟シティマラソン」。

新潟シティマラソンはフル・ハーフ同時開催であり、実施規模も調査当時（※平成24年）はフル・ハーフ・10キロが各3千人といい感じ。3競技同時スタート方式で8時半に号砲。とりわけ驚いたのが途中でフルとハーフの分離・合流ポイントがあることでした。

要するに、一度別れた恋人が遠回りして後を追っかけてくる状況です…わかりにくいですね（ちょっと怖いし…）。

それはさておき、フルとハーフが一度分離し、同じ場所で合流するということは、ハーフの後半集団とフルのトップグループが、一定時間その分離・合流ポイントで「かち合う」こととなります。そこで、それをどのようにして運営しているのか…我々事務局は、その瞬間を確認するため大会当日に現場を訪れ、この目で直に見てビデオにも撮ってきたのであります。

現場では驚くほどスムーズに運営がなされていました。審判の方々が見事に現場を整理し、「フルは直進、ハーフは折り返し」と何度も声がけをしてミスコースを防止していたほか、懸念していた「かち合い」の場面でも、「フルが来ます、ハーフはセンターライン側」のかけ声で、片道1車線の細い道路を見事に分離していました。

フルマラソン検討部会でのコース造成に向けた討議は、作業部会や関係機関との意見交換会も含め1年間で計12回におよびましたが、新潟の「分離・合流ポイント方式（※当方で勝手に命名）」が我々に大きなヒントを与えてくれたこともあり、結果、平成25年4月、「コース案」の作成に至ったのであります。

～ 第4回 昨年の経験を踏まえ、さらなる改善を ～

「2016北海道新幹線開業記念マラソン プレ大会」と冠した昨年のハーフマラソン大会。当日は雨が降り注ぐなか奇跡的に競技時間帯だけは小雨となり、関係者一同、胸をなで下ろした記憶があります。

さて、昨年大会の運営状況を振り返ると、アンケートなどを通じて参加者の皆様からは、トイレの数や会場レイアウト・動線、さらには手荷物預かりや記録証発行時の所要時間の短縮について、数多くご意見を頂戴しておりました。

雨が降りしきるなか、記録証待ちで競技場には長蛇の列。例年であればゴール後は多くの方がトラック内の芝生でくつろいでいただいた後、記録証発行所に向かうことで流れの分散化が図られておりましたが、昨年は雨の芝生でお休みいただく状況でもなく、結果、記録証発行所に一気にお客様が集中しました。

このため今回は、記録証発行ブースを増やすとともに、場所についても他大会の事例を参考としてゴール地点の近くに特設テントを設定します。また、トイレの数や皆様の待機スペースなどを拡張するため、陸上競技場に隣接する野球場のスタンドや市民プールなどもフル活用してまいります。

手荷物預かり所についても場所を変更し、スペースを大きく取るとともに、他の大規模マラソンでの導入事例を参考として、

- ・ 荷物袋と貼り付けラベルを事前送付
- ・ 預け入れは時セルフ方式
- ・ 返却時は係員によるゼッケン照合

という方法を採用いたします。

加えてスタート時刻。フルマラソン化に備え従前は午前9時50分であったスタート時刻を、昨年は午前8時へと前倒しを図りました。この結果、参加者からは「早すぎる」というご意見を頂戴しましたが、多くの市民からも「8時スタートでは職場にたどり着けない」という切実な要請があり、関係機関との協議を経てこれを午前9時へと変更いたしました。

ということで函館マラソン、現場での混雑を可能な限り解消し、皆様に快適にマラソンを堪能していただけるよう、今後もさらなる改善などを通じて対応を尽くしてまいります。

～ 第5回 事業費はどうやって確保する？（前半） ～

マラソン開催にはどのぐらいのお金がかかるのか？

そのマチの地形や交通状況、さらには大会規模などにより開催経費は大きく振幅しますが、開催実績25回を誇る函館ハーフマラソンの場合は約5千万円でした。でもなぜ？ただ道路を走るだけなのに？私も数年前にその金額を聞いてかなり驚いた記憶があります。

函館ハーフマラソンの場合、全体事業費の5割超が会場設営や皆さんへの記念品、募集に関する広報、さらには記録集計など大会運営経費に充てられています。また、函館ハーフマラソンは市街地を走るコース設定であり、それゆえ沿道からの応援が充実しているとの評価をいただいておりますが、一方で市街地内の交通渋滞抑制や安全確保、さらには事前広報など対応策が必要となり、それが全体事業費の約4割を占めています。

ではフルマラソン化で事業費はどうなるのか？

お答えします。超概算で申し上げますとハーフの約3倍、約1億5千万円超の規模となります。後述しますがフル化にともなう運営上の大きな変更点としては、コースが2倍の距離となることによる大会運営費や交通関係経費の増はもちろんですが、新たに医療・救護面の強化が必須事項となります。また、これまで要望が多かった競技終了後のおもてなしイベントの開催、そして北海道新幹線開業記念大会の名を冠するに相応しい参加者記念品の充実なども、事業費増加の要因として加わります。

次の問題は、そのような巨額の事業費をどのようにして調達するのか？函館マラソンのフル・ハーフの参加者計8千名で全ての開催費用を負担していただくと仮定した場合、参加者一人当たりでは $1\text{億}5\text{千万円} \div 8\text{千人} = \text{約}1\text{万}9\text{千円}/\text{人}$ と、極めて高額な参加費となってしまいます。

マラソンは、健康増進や経済面での貢献、さらにはシティプロモーション効果など、地域に多面的な波及をもたらすものとしてその評価が高まりつつあります。こうした状況を背景に、各地のマラソン大会については参加しやすい現実的な単価設定がなされた中で、自治体からの補助金や企業協賛などを得て事業収支の均衡が図られているのが通例となっています。なおその比率は一般的に参加費：補助金：協賛金＝1：1：1とされています。（つづく）

～ 第6回 事業費はどうやって確保する？（後半） ～

第5回で触れたとおり、マラソン大会の事業費は、参加費と補助金と協賛金が各々同程度の割合（各3割強程度）で賄われるのが通例となっているなか、函館ハーフマラソンの場合、こと協賛金については事業費5千万円弱に対し2割以下の8百万円規模にとどまっていました。

一方、フルマラソン検討部会での討議を通じて明らかになった3つの主要課題（コース検定調整、地先理解、運営体制・事業費精査など）をさらに掘り下げるため、平成25年4月に組織した「函館フルマラソングループワーク（※函館商工会議所青年部、道南陸上競技協会、函館市教育委員会の三者で構成）」の検討成果として、先述したとおりフルマラソンの実施には事業費約1億5千万円の確保が必要となること、とりわけ協賛金については4千万円規模で確保する必要があることなどが明らかになりました。

協賛金とはナンバーカードへの企業名掲出などマラソン実行委員会が提供する権益に応じ、その対価として各スポンサー企業から拠出いただく経費です。超メジャーなマラソン大会では、その金額が数億円規模に及ぶこともあると聞いていますが、我が函館マラソンは四半世紀の歴史を有する大会とはいえない地方の大会です。我々が提供できる権益も限られている状況。

ということで協賛金、これまでの約5倍、4千万円も集まるのか？誰が責任を持つのか？

実行委員会のメンバーが困惑しているという情報は、ほどなく函館の経済界のドンに伝わりました。すると氏からは「マチのために経済界の若手が頑張っているんだ。我々が手伝うのは当たり前」、だから「カネのことは心配するな」という強烈なメッセージが発せられたのであります。

この一声をきっかけとして関係者の心が一つになり、そこから開催に向けて一気に流れが加速していったのであります。今からちょうど2年前のことです。



（本当に多くの企業・団体皆様からご支援をいただき、函館マラソン、このたび開催の運びとなったのであります）

～ 第7回 エイド・フード協賛が続々と（その1） ～

マラソンの魅力ってなんでしょうね。「走る」人に訊くと様々ですが、こと競技中であれば「やっぱりフードかな」という方は多いようです。そこで皆さん気になる函館マラソンのエイドステーションで提供するフードなどについて、順次紹介してまいります。

昨年1月、自らもランナーとして数多くのマラソンに参加している「くだもの社長」（※事務局の内部呼称）と初めてお会いした際のこと。氏からは函館マラソンへの期待が（苦言とともに）ガンガンと寄せられそれは次第にエスカレート、エイドステーションの話題に至ると最高潮に達したのでありました。そのような防戦一方の状況でしたが、事務局が苦し紛れに放った一言は、氏に会心の一撃を与えたのでありました。

事務局：「社長、そんなに言うならその果物、提供してもらってもいいんですけどね？」
くだもの社長：「提供って…え？」、「て・い・きょ・う…のことだよな？」、「…OKやりますよ」、「ウチはね、来年で創業百周年なんだから」、「バナナだ？ミニトマトだ？イチゴだ？こうなりや何でも出しますよ！」。

事務局：「（一同）感涙&握手」

このような経過で函館マラソンのエイドステーションでの提供物として、果物の部は、くだもの社長・からご協賛をいただき、晴れて「バナナとミニトマトとイチゴ」に決定したのでありました。ただ、このお話しには後日談がありまして…。

くだもの社長：「いやーイチゴなんだけどさ…6月末頃って地元のイチゴが収穫終了期でさ」、「ちょっと困ってるんだわ」、「かわりにさ、その頃って夕張メロンがいちばんウマくなる時期なんだけどさ」、「夕張メロンでもいいかい？」

事務局：「（一同）感涙&握手」

ということで、函館マラソンの本番では、北の大地が育んだ旬の幸を、コース上でお楽しみください（※夕張メロンはフルマラソン35.8km地点の第10エイドステーション＝緑の島でのみの提供となります）。



～ 第8回 緊急報告！ コース検定やいかに ～

ランナーであればマラソンコースの「公認検定」という制度があるのはご存知かと思えます。自らの走行タイムが「公認記録」になるのか「非公認」となるのか。皆さんにとって、あまたあるマラソン大会を選択する際、この「公認」の有無は重大事項ですよ。

そのコース検定がどのようにして行われているのか…私は知っています。何せ昨年、函館ハーフのコース検定に立ち会いましたからね。今回は、その検定調査の概要を以下のとおりお知らせいたします。言っておきますけどかなりシビアです。

(検定前)

- ①公益財団法人日本陸上競技連盟に「長距離競争路・競歩路実測調査」を依頼する
- ②主催者側が400mピタリの「カリブレーションコース」を測量・設定しておく

(検定前日)

- ③日本陸連検定員と技術員が、カリブレーションコースを検定用50m鋼製巻尺で再計測する(50m×8回で400mを測定し、その実測値をもとにカリブレーションコースをマーキングする)
- ④上記③がもう一度実施され、2回の平均値に基づき暫定カリブレーションコースが設定される
- ⑤当日の気温を記録、気温により伸縮する鋼製巻尺の長さが温度補正係数などにより算出される
- ⑥上記⑤により算出された最終修正距離に基づき、上記④の暫定カリブレーションコースがさらに修正され、検定用の最終的なカリブレーションコースが設定される

(検定当日)

- ⑦日本陸連の検定員と技術員が、上記⑥のカリブレーションコースを各々自転車で4回走行し、400m走行時の計測用カウンター値の平均値を算出。さらにコース過小防止係数が乗じられ、そのうえで1km当たりのカウント数が算出される。この数値がコース測定時の「作業定数」として使用される
- ⑧日本陸連の検定員と技術員がマラソンコースのスタート地点から自転車で出発、あらかじめ設定しておいた計測ポイント毎に計測カウンターの数値が記録され、フィニッシュ地点までそれが続けられていく
- ⑨上記⑧のコース実測後、上記⑦が再度実施され、実測終了時点の作業定数が算出される。その後⑦と⑨の2つの作業定数の平均値が算出され、それが「測定日の定数」として設定される
- ⑩上記⑨の測定日の定数を元にコース全体の累積距離と過不足となる距離が算出される。申請者側には計測ポイントの修正が指示される
- ⑪日本陸連技術役員立ち会いのもと、計測ポイントを修正する～終了

(後日)

- ⑬公益財団法人日本陸上競技連盟「長距離競争路・競歩路実測調査報告書」が届く
- ⑭そのまた後日、同連盟から「公認書」が届く

ね。すごいですね。この検定ですが、昨年のハーフも今年のフルも、世界で約60人、日本には数人しか居ない「国際陸連A級計測検定員」たる日本陸上競技連盟 施設用器具委員長の平塚和則氏(67歳)にご担当いただきました。結果は…合格でした。

「もうトシだから後輩に道を譲りたいんだけどねえ」と言いながら、雨のなか踏みしめるペダルの力強さには昨年に引き続き今回も驚かされました。氏にはぜひとも2020東京五輪のマラソンコースの検定も担当していただきたいですね。

～ 第9回 エイド・フード協賛が続々と（その2） ～

先日の「果物編」はお楽しみいただけましたか？それはさておき次は「スイーツ編」です…とはいってもいつも通りの駄文ですから、またまた長くなってしまいます。

毎年1月に東京ドームで開催されている恒例イベント「ふるさと祭り東京」ですが、そこに今回初の試みとして、全国各地の個性派マラソンが集結する特設ブース「全国ご当地マラソン2016」が設けられることとなりました。縁あってこのブースへの出展のお話しをいただいた我が函館マラソンは、全国のメジャーなマラソンに対抗すべく「目立つぞ！」のただ一点のみを目標に据えて、いざドームへと臨んだのであります。

また、せっかく田舎から東京に出向くわけですから、東京のランナーの方々とのダイレクトな会話を通じて競技・運営の参考にしたいという思いも高まりました。ただ、毎日5万人ものお客様が訪れる「ふるさと祭り」です。その中からランナーだけを抽出するのは難しい…そこで考えたのが「エイドアンケート」でした。

ブース前を行き交う皆さんに対し、マラソン参加経験の有無をご記入いただくとともに、「ランナーの気持ちになって、走っている最中に補給したいエイドなどを3つ選んで！」といういささか無茶振りな設問に対し、「走る人」からも「走らない人」からも、真剣に思い悩まれた上でのご回答を頂戴することができました。厚く御礼申し上げます。

さて、その結果ですが、スイーツの部ではソフトクリームがダントツとなり、続いてチーズケーキ・羊かん・どら焼きなどが、ほぼ横一線で並びました。実行委員会では、今回の結果をもとに、これまであの手この手を使って関係各方面に「工作」してきたのであります。（つづく）

※右は、エイドアンケートの内容
（回答者は、昨年に引き続き当大会のゲストランナーとしてご活躍いただくタレントで「はこだて観光大使」の福島和可菜さん。ちなみに福島さんのフルマラソンの記録は3時間3分42秒）。

個人的には、ビール、海鮮丼、ラーメン、かき焼きが、走る事考えて、羊かん、チーズケーキ、きびだんごが欲しい！

函館マラソンエイドアンケート

1. 3つ選んで○を付けてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
羊かん	チーズケーキ	ビール	ソフトクリーム	海鮮丼	はこだて塩ラーメン	じゃが塩バター	クッキー	きびだんご	どら焼き
		✓		✓	✓				

2. 今までにフルマラソンの出場経験はありますか

ある ○ ない

love ♥ running
* J. Wakama power of smile

～ 第10回 エイド・フード協賛が続々と（その3） ～

さて、函館マラソンのエイドステーションで提供したいスイーツといえど何でしょうかね？函館・道南地区には和洋さまざまな名産品がありますが、エイドアンケートの結果をみても、やはりこれから紹介するクラスの老舗や名店は外せませんよね。だからいろいろな方々にご尽力（※暗躍）いただいて、ご協力（※無償提供）いただけるようアプローチ（※工作）に努めたのであります。

①どら焼きが有名なあのお店の場合

昨年12月、我が函館マラソンを支える運営委員会の中核メンバーたる函館商工会議青年部の皆さんとの定例打ち合わせをしていた時のこと。

事務局：「そろそろフードの内容も決めていかなきゃね？」、「やっぱり函館らしいもの出さなきゃダメだね」、「でも函館らしいものってなんだろうね」

青年部でいちばん真面目に見えるS社長：「そりゃ、あの店のどら焼きでしょ」

事務局：「はい決定。行ってきて」

長いから略してSIM氏：「え？」

事務局：「だから行って交渉してきて…ってか貰ってきて何百個とか、どら焼きをさ」

SIM氏：「え？…や、やりますよやってみせますよ！」

～数日経過～

SIM氏：「社長、マラソンの会議で御社をイチ押しした私の立場ってものがありましたて、そのお、どら焼きを提供していただけないものかと…」

超老舗和菓子社長：「なるほどマラソンでどら焼きね」、「面白いから考えておきますね」、「でもウチのどら焼き大きいからね…うーん」

～それから約1か月経過した正月のとある日、函館市内の経済団体の事務所でその超老舗和菓子社長と久しぶりに接近遭遇した私～

事務局：「社長、聞いてますよね？青年部から。」

超老舗和菓子社長：「え？なんだっけ？あ、例のあれね、聞いてますよ。」、「あのね、どら焼きだと大きいからカットしなきゃなんないでしょ。それ面倒ですね」、「だから1個ずつパックしてるお菓子あるから」、「それ、今のウチのイチおしなんだけどね、どう？」。



●千秋庵総本家
カステラ饅頭 函館散歩

（※「カステラ饅頭 函館散歩」はフルマラソン35.8km

地点の第10エイドステーション＝緑の島で提供いたします ※数量限定）。

～ 第11回 エイド・フード協賛が続々と（その4） ～

前回は、我が家では奪い合いのケンカにまで発展する銘菓「どら焼き」転じて「カスタラ饅頭」のお話でしたが、お楽しみいただけただしょうか。次は、ウチの娘が帰省すると必ず学友達の土産に買っていく銘菓2点のお話です。

②丸缶羊かんが有名なあのお店の場合

食べたい分だけ自分でカットできる紐付きの独特なパッケージ。エイドアンケートの結果からも羊かんだけは外せないと考えた私は、円柱状のそれをランナーの手に届けるべく僅かな伝手のみを頼りに交渉の場に臨んだのであります。

事務局：「アウトラインは先日電話でお伝えした通りなのですが、どうですかね？」

羊かん専務：「いやぁ社長にも相談したんですけどちょっと大変だなあって話で」

事務局：「そうですか…」、「でも、本当にもう、ご無理なさらないでください」、「ご検討いただいただけで嬉しいです」（※ここですっかり諦めモード突入）

羊かん専務：「本当にあの、羊羹を4千個に切り分けるのって大変で」、「だからあの、ミニサイズの方だけど、これ（※実物を指して）4千個、切らないで提供しますからどうでしょうね？」

事務局：「え？」、「ちょっと意味がわからないんですけど」（※パニック状態）、「1本で206円でしたっけ？4千個だと80万円超えますよ！！」



●五勝手屋本舗
五勝手屋ミニ丸缶羊かん

このような嬉しいお話をいただいたのは、今年の3月中旬のことでした。ただ、このときは、このお話をさらに上回る後日談が待っているとは夢にも思いませんでした。

羊かん専務：ウチの羊かんだけ折角だからフルマラソンバージョンのパッケージをつ



くろうと思ひまして…もちろん商売用じゃなくてマラソンで提供する4千個をマラソンのポスター図柄で印刷して…外装のフィルムも最初から付けなきゃ剥がす手間も省けるし…ボランティアさんたちもランナーさんたちも喜ぶかなって…ダメですかね？（※「五勝手屋ミニ丸缶羊かん（マラソンパッケージ版）」は、ハーフマラソン18.4km地点、フルマラソン28.7km地点の第7エイドステーションで提供いたします ※数量限定）。

← ミニ丸缶羊かんがこの図柄で包まれる！

それはさておき…もう一つ、「あの」洋菓子のことを書くスペースが無くなってしまった…次回に続きます。

～ 第12回 エイド・フード協賛が続々と（その5） ～

※前回からの続きです（「あの」洋菓子のことです）

③函館の超人気洋菓子といえば…

そうです、あの店のあれだけは外せませんよね。わかってますよ皆まで言わないでください。ということで、全国の北海道物産展などでも飛ぶように売れ続けるあのフワフワでトロトロの銘菓も、函館マラソンのフードとしてご提供いただけることになりました。本当にありがとうございます！



●ペイストリースナッフルス
チーズオムレット

ただ問題がひとつ。この超有名洋菓子は要冷品なのです。我々には保冷手段の確保が条件として提示されていたのであります。

事務局：あのお、ウチのメンバーの義父さんが運送会社やってまして保冷車も持ってる
そうなんです…それがなんと超弩級の11トントラックだということで…。

ふわふわお菓子の本部長：え！（絶句）11トントラックを開け閉めするだけでひと苦労しますよ…もう…ウチの保冷車出しますよ！現場でも邪魔にならない大きさだし。2時間くらいでしょ？4時間！話すたびに段々ハードル高くなっていくような気が…。

（※「チーズオムレット」はフルマラソン35.8km地点の第10エイドステーションで提供いたします ※数量限定）。

さて、唐突ですが…聞くと、ランナーは30キロ地点を過ぎたあたりで無性に「炭酸飲料が飲みたい」モードに陥るとのこと。そこで当函館マラソンのwebサイト右側のバナーをご覧ください。スポンサーさんの一覧に「Coca-Cola」のロゴが…見えますね…ありますね！

函館マラソンでは、競技中の飲料として水やスポーツドリンク（※もちろん「アクエリアス」）をエイドステーションで提供いたしますが、このたび北海道コカ・コーラボトリング株式会社様からのご厚意により…そうですそのきつつい30キロ超えのポイント（第8エイドステーション31.3km地点）で、なんと「コカ・コーラ」をご提供いただけることになりました。それもあの赤いクルマを横付けいただき、多くの同社スタッフさんの爽やかな笑顔とともに！



- 炭酸の刺激と独特の味わいで、のどの渇きを癒すだけでなく、ココロとカラダの両方をリフレッシュし、前向きな楽しい気分へとスイッチしてくれます —

これは「コカ・コーラ」の商品説明文ですが、ちょっとシビれましたね。まさしくマラソンにぴったりな飲み物です。



●コカ・コーラ社との打合せ状況：なんと瓶コーラが出てきていつもかなり嬉しくなるのであります

～ 第13回 エイド・フード協賛が続々と（その6） ～

第9回で少し触れた東京ドームでのエイドアンケートですが、食の部では第1位が「じゃがバター」、第2位と第3位が僅差で「はこだて塩ラーメン」、「海鮮丼」と続きました。塩辛を添えるタイプの「じゃがバター」は函館マラソンプースの中で調理・販売し、「おいしい」との評判をいただいたことが高いポイントに繋がったものと考えられます。その一方で、函館の食の人気を支える「はこだて塩ラーメン」と「海鮮丼」が次点となったのは、そもそも気候冷涼な初夏の北海道とはいえ6月末のマラソンでフードとしてそれを提供できるのか？と、これはマラソンを知っている方ほど「無理だろう」という一定の抑制が働いた結果なのかなと考えておりました。

で、ここからが本題（いつもながら前振りがかなり長くなり申し訳ありません）。まずはラーメンについて。屋外でラーメンを提供するのは衛生管理などもあって難易度が高く、その担い手探しは暫し難航しました。そんなある日、よく考えると私の傍に座っている同僚、なんと2002年から3年間開催した屋外イベント「函館塩ラーメンサミット」の企画運営メンバーだったと気がつき…彼の紹介で、ここからトントン拍子にコトが進みまして。

事務局：「うどんとかソーメンとか沖縄ソバとか、各地のマラソンではその地のおいしい麺類を補給食として提供して人気になってまして…」（うわー、相変わらず顔こわい）、「だから函館でも塩ラーメンを出したいなと思ひまして…」（うわー、黙ってうんうん頷いてるよ）、「こんな風に、紙コップにひとクチサイズで提供したいなあ…どうですかね？」（うわー、反応薄い？ダメか？）

函館一顔の怖いラーメン店主さん：「わかりました」、「やりましょう、つてかやらせてください」、「仲間にも話してみます（※後日、市内の人気ラーメン店3店+老舗製麺会社で合同実施するとの連絡あり！）」、「冷たいスープで塩味？それでいきましょう！」（※「はこだて冷やし塩ラーメン（ジュレタイプ）」は、フルマラソン35.8kmの地点第10エイドステーション＝緑の島で提供いたします ※数量限定）。



らあめん無限・花園町 24-21



TEPPEN・桔梗 1-19-19



らあめんめんきち・日吉町 3-44-13



※この3店の中のどこかに「函館一顔の怖いラーメン店主さん」が居ます！皆様各店でご確認ください。

～ 第14回 エイド・フード協賛が続々と（その7） ～

正直に申しあげますが…東京ドームでのエイドアンケートについては事務局側で若干の遊び心も込めて選択肢を考えたのでありまして、「ラーメンや海鮮丼は無理だろう」と我々も思っておりました。

このような中、前回お知らせしたとおり、まずは「はこだて冷やし塩ラーメン」を緑の島・第10エイドステーションで提供できることとなり嬉しい限りですが、もう一方の雄、「海鮮丼」はどうでしょうね。ま、悩んでいても仕方ないですからちょっとアタックしてきたのでありまして…。

事務局：「1月の『全国ご当地どんぶり選手権』、上位入賞おめでとうございます」、「オレも喰ったんですよ現場（東京ドーム）で」、「いやー『漁り火がごめ丼』旨かった」、「来年のシード権も獲得したんですよ」（…以後、延々とべらべらべらべら…）
超有名市場のクールな事務局長：「で、本題は？」、「ああ、それはある種、イベントです」、「イベントは我々、慣れてますよ」、「ちょっと検討する時間をください」

（だが、それから3週間経過。何の音沙汰もなし…ダメか）

事務局：「どうですかね検討状況は。やはり難しいですかね？」

超有名市場のクールな事務局長：「難しいですね。『漁り火がごめ丼』の構成要素のうち、夏場で屋外という状況の衛生管理を考えると、ホタテごはん・がごめ昆布・イクラは事前調理したり保冷すれば大丈夫ですが、真イカとウニは難しいかもしれませんね」

事務局：「そうですか…（やはり）」

超有名市場のクールな事務局長：「ですから今、真イカとウニが入っていないマラソン特別バージョンで提供する方向で検討しています」、「函館マラソンへの協賛ということで、原材料提供も含め全面協力させていただきます」

（そして試食の日）

事務局：「えっ…ウニとかイカなんかも入ってますよ！」、「これって小さいけどホンモノの『漁り火がごめ丼』？もしかして」、「ですよ…でも大丈夫ですか？」

超有名市場のアツイ役員お三方：「衛生管理？なんもよ具材はちゃんと保冷するから」、「あとはホタテごはんの上にしゅっと盛り付けるだけよ」、「予算？イベントだもの頑張らないとな。まず、まがせれ」。

いやー涙がでますね（※「漁り火がごめ丼」はフルマラソン35.8km地点の第10エイドステーション＝緑の島で提供いたします ※数量限定）。



●函館朝市協同組合連合会

漁り火がごめ丼（※大きく見えますが、ひとロサイズです念のため）。なお朝市さんでは函館マラソンのゼッケン提示で各店オリジナルのサービス特典ありとのこと…嬉しいですね。詳しくはポップを目印に加盟店へ。

～ 第15回 おもてなしイベント ～

各地のマラソン大会の開催状況を見聞すると、ゴール地点ではステージイベントやその地の豊かな食が楽しめるテントブースなどが展開されているのが一般的です。そこでこのたびのフルマラソン化を契機に、函館マラソンもスタート・ゴール地点となる千代台公園内で、マラソン当日に「函マラおもてなしフェスタ」を開催することとなりました（午前10時から午後4時までの間）。

会場では、ステージイベントや地域の食をお楽しみいただけるよう、現在、出展内容を検討中です。なお嬉しいことに協賛社さまなどから参加者への「振る舞い」のお話を多数いただいておりますので紹介させていただきます。

- ・イカめし：関係者とマラソンの打ち合わせをしていた今年1月のこと。函館商工会議所青年部の「函館マラソン推進委員会」のメンバーでありランナーでもある同委員会の委員氏に「おもてなしイベントで何か振る舞わないの？」とかるーい感じで切り出したら、まるで誘導尋問にでも引かれるかのように「え、イカめしでもいいですかね？」、「ウチの会社、森町が発祥だし、イベントで振る舞ったことあるし…」と。ということで、函館マラソンのゴールドスポンサーである株式会社プロテック社さまのご厚意により、フィニッシュ後、おもてなし広場で道南・森町の特産品として有名なイカめしが振る舞われることとなりました（※数量限定）。



- ・函館牛乳：エイドアンケート・スイーツの部第1位のソフトクリームをエイドステーションで提供できないものかと暫し思案、そうだ！あの人しか居ないと東京ドームでの出展時にお世話になった会社のカラダの大きな課長に相談したところ…残念ながらエイドステーションで大量にソフトクリームを提供する方法が確立できていない、というかなり無理っぽい状況だということが判明。あまりに残念がる私に気を遣ってか大きな課長「フィニッシュ後に、競技場で函館牛乳を振る舞うというのはどう？」。ということで、株式会社函館酪農公社さまのご厚意により、フィニッシュ後、おもてなし広場で「函館牛乳」が振る舞われることとなりました（※数量限定）。



- ・じゃがバター：エイドアンケートの食の部で第1位となった塩辛を添えるタイプの「じゃがバター」。函館農産物ブランド推進協議会さまのご厚意により、フィニッシュ後、おもてなし広場で振る舞われることとなりました（※数量限定）。



参加者の皆様に楽しんでいただけるよう、今後も継続して各種「工作」の取り組んでまいります。当日をお楽しみに！

～ 第16回 エイドステーションの運営（その1） ～

日本陸上競技連盟競技規則をみると、10km以上の道路競争については「全ての種目において、約5km間隔で給水所を設けるものとする」とあり、また「水以外の飲食物も給水所で提供することができる」とあります。全国各地で開催されるマラソンは、基本的にはこの競技規則に即する形で競技運営がなされています。

函館マラソンも、この競技規則に基づき、概ね5km毎にエイドステーションを配置いたします。また、そこで提供するエイドやフードについては、これまでこの場でお知らせしてきたとおり、通常の水分補給とともに、函館の特色ある「食」を提供できるよう、日夜調整作業を進めているところです。

一方、エイドステーションの運営には多くのスタッフが必要となります。

昨年までのハーフマラソンでは、競技規則を上回る数（5箇所）のエイドステーションを設定していましたが、今回のフルマラソンの実施により、その数は倍以上となりました。それは、そこに携わるヒトの人数も倍以上となるということを意味しています。

さあどうする？（つづく）

エイドステーションでの補給内容一覧

区分	フル (距離 km)	ハーフ (距離 km)	水	アケリアス	スポンジ	フード	備考
第1エイド	4.7	4.7	●				
第2エイド	10.3	—	●	●	●		
第3エイド	14.1	—	●	●		●	バナナ、ミニトマト
第4エイド	17.8	8.5	●	●	●		
第5エイド	21.5	12.2	●		●		
第6エイド	26.5	16.2	●		●		
第7エイド	28.7	18.4	●	●	●	●	バナナ、ミニトマト、丸缶羊かん
第8エイド	31.3	—	●	●			コカ・コーラも提供
第9エイド	33.5	—	●				
第10エイド	35.8	—	●	●	●	●	※1
第11エイド	39.4	—	●	●			
フィニッシュ	42.195	21.0975	●			●	フードは公園内特設会場などで提供 ※2

※1 バナナ、ミニトマト、夕張メロン。数量限定提供【函館冷やし塩ラーメン、漁り火がごめ丼、カステラ饅頭、チーズオムレット】

※2 数量限定提供【イカめし、函館牛乳、じゃがバター、夕張メロン】

～ 第17回 エイドステーションの運営（その2） ～

フルマラソン化により、沿道の整理や給水所の運営などではこれまで以上に多くのボランティアスタッフが必要となります。その数はハーフ時代の約2.5倍、2千5百人規模となります。

全国の数多くのマラソンの場合、webサイトなどで「ボランティア募集」と呼びかけるのが通例となっていますが、聞くと個人情報扱うこともあってその集約作業には忙殺されるとのことで、専任スタッフが数人は必要とのこと。残念ながら「(都市型マラソンとしては)日本一小さい事務局」を標榜する我が函館マラソン実行委員会事務局としては、そこに多くのヒューマンリソースを割くわけにはいきません。

で、どうする。その解決に向けた糸口は、スポンサー企業との打ち合わせの際、先方のクチから導き出されました。

プラチナスポンサー社:「協賛金を出すだけでなく、地域貢献もしたいんですよ。」「何でもいいから…ゴミ拾いとかボランティアやらせていただけませんか?」

このような嬉しいご提案が契機となって、函館マラソン独特のスタイルであるスポンサー企業や協力団体名などを冠したエイドステーションが次々と誕生していったのであります。もちろん名前を冠するからには1箇所あたり数十人レベルのボランティアスタッフを自主的にご手配いただくことが基本となります。

<決定順>第9エイド(JACCS)／第10エイド(商工会議所青年部)／第2エイド(函館空港ビルデング)／第5エイド(テーオー小笠原)／第6エイド(みちのく銀行)／第7エイド(北ガス)／第8エイド(コカ・コーラ)／第11エイド(函館山ロープウェイ)／第4エイド(北ロータリークラブ)／第3エイド(がっつDONAN会)

各社・団体の個別の経過をご紹介していきたいところですが、また駄文が長くなってしまいますので特徴的な事例だけ、企業名を伏せて(イニシャルのみで)紹介しますね。

T〇本社:「うちの黄色い店、海岸通りの海側にあるからマラソンの日は商売にならないからなあ…80人ね…店にいてもしゃーないからね」

Kビル:「こうなったらキャビンアテンダントさんとかも出すわ」

M銀行:「給水ってさ、ねぶたの格好して浴衣でやってもいいの?」

H山RW:「うちの会社何人居ると思ってるの…うーん…こりゃ家族とかも総出だね」

第18回 メロンはどうやって提供する？

昨日(6月17日)発生の地震情報に接した多くのランナーから「函館マラソンは大丈夫か？」とのお問合せをいただいておりますが、現段階において大会開催の障壁となる被害は生じておりませんので、引き続き当日に向け体調管理に万全を尽くしてくださいね。

さて。

夕張メロンの正式な切り方というものを皆さん知っていますか？少なくとも私は知りません(そんなに食べたこともありませんし・涙)。そこで夕張メロンの生産本拠のwebサイト「JA夕張市ネットショップ」を覗くと、切り方については言及されていませんが、「おいしい食べ方」については図解されていました。

- まず、
- ①「完熟した夕張メロンを2つに切ります。」そして
 - ②「わたごと種をとります。」なるほど。で、
 - ③「皮ごと全体を覆うようにラップをかけます。」ふむふむ。
 - ④「冷蔵庫でよく冷やします。」…ここで不覚にもよだれが出てきました。
 - ⑤「スプーンですくって食べると、やわらかな果肉だけでなく、みずみずしい果汁もしっかりと味わうことができます。」…ゴクリ。

この夕張メロン、第7回でお知らせしたとおり、くだもの社長からのご厚意により提供が叶ったわけですから、おいしく味わっていただくため、できればよく冷やしてお出ししたいと考えております。

で、随分と遠回りしましたが、その「切り方」です。

くだもの社長：「全体を半分にカットしてさ、たねを取ってさ、それを半分にして、そのまた半分にして三日月をつくるわけさ。で、それを皮が残った状態で真ん中からぶつとりと切れば16分の1でしょ。それなりに食い応えあるわね。」と太っ腹。

事務局：「社長、それじゃ皮がぼいぼい捨てられるから現場は悲惨になるよ。だから皮も取ってさらにそれを半分に切って小さな紙コップに入れるというのはどう？」と現場マネジメントも加味してご意見具申。

くだもの社長：「いいや、それじゃセコいわ。」と譲らず。

これはもう、実際に切ってテストする(=喰う)しかないみたいですね。この結果は…フルマラソン35.8km地点の第10エイドステーション=緑の島でお確かめください。



●くだもの社長はフルにエントリー済み。この顔を見たら気軽にお声がけください！

なお、くだもの社長からは「夕張メロンさ、フルの人たちにはあたる(※北海道弁。この場合「配られる」の意)けど、ハーフの人たちにはあたらなでしょ…なんぼ考えてもそれってダメだわ」とのこと、氏のご厚意によりハーフの一般ランナーが陸上競技場にゴールするタイミングを見計らって、競技場内で夕張メロンが振る舞われることとなりました(数量限定)。すごい人です。

～ 第19回 一番たいせつなことは… ～

ランナーの皆さんにとってマラソンで一番大切なことはなんですか？などと禅問答ではありませんが、本当にこのように問われたら…少し考え込んでしまいますね。

タイムの出る平坦なコース、エイドステーションでの地域色あふれるフード、かっこいい参加記念品など様々あると思いますが、こと「マラソンで」という前提をとって、シンプルに、自らの人生に重ね合わせて「一番大切なこと」を考えるとどうでしょう。

4年前に大病を患った私であれば、その答えは「健康」でしょうかね。そしてその源泉たる「命」が一番大切だという思いから、それを一日でも長く保持せんと、このたび（ウチの奥方には「バッタモンだ」と嘘をついて）ロードバイクを購入したのであります。

さて、マラソン愛好家の方々にとっても、突き詰めると「命」が一番大切なものではないでしょうか。そのような思いから、函館マラソンへの参加を通じてそれが決して傷つけられないことがないよう、我々実行委員会は、このたびのフルマラソン化に対応すべく、本当に多くの機関や団体のご協力を仰ぎながら医療・救護体制の充実を図りました。

まず、体制面では函館市医師会の全面的なご協力をいただきながら17名（昨年は8名）にもおよぶ医師派遣と、当日の搬送先医療機関の受入体制を整えていただきました。また、救護所などへのスタッフとして北海道看護協会道南 南支部、北海道理学療法士会道南支部、北海道柔道整復師会函館ブロック、函館厚生院看護専門学校、市立函館病院高等看護学院、函館市医師会看護専門学校の皆様にご協力をいただくほか、救急搬送についても引き続き函館市消防本部、南渡島消防事務組合、函館サイクリング協会の皆様から全面的なバックアップをいただきます。

加えて北海道内からのご支援として、北海道救急医学会から医師3名をはじめ多くの看護師を派遣いただくほか、北海道ハイテクノロジー専門学校から救急救命士学科の2生約100名の派遣、さらに本大会が日本医師ジョギーズ連盟の公式医療支援大会として認定されたことを契機として、同団体から約40名ものランニングドクターを全国からお迎えすることとなりました。

また、当日のコース上での医療・救護の強化策として、8箇所の救護所とゴール地点付近に収容救護所を新設するほか、メディカルバイク隊の強化（10隊を17隊に）、AEDを28箇所、民間救急車7台を新規配置いたします。



●メディカルスタッフ着用ベスト
（※また随分と美しい方ですね…）

…とはいってもランナーの皆様、苦しくなったらリタイアしてくださいね。

「命」が一番大事ですから。

～ 第20回 みなさまへ ～

主にはランナーの皆様に向けたメッセージとしてせっせと書きためてきたこの「準備状況」ですが、このたび6月26日の号砲響き渡るその日を迎えるにあたり、函館マラソンのコース沿道にお住まいの方、お勤めの方、所用でコースの近くにおいでの方、そして遠くから函館観光を楽しみにお越しいただいた方など皆様に対しまして、この場をお借りしてお詫びとお願いを申し上げます。

これまでお伝えしてきたとおり、函館でのフルマラソンの実施は四半世紀におよぶ課題の解決に向けた取り組みなのですが、だからといって皆様の貴重な日曜日を長時間にわたり占有してしまうことの免罪符にはならないものと考えております。主催者一同、本当に申し訳なく思っております。

マラソンで道路が混雑する。迂回路も少ない。そもそも家から車で出られない。そのようなご不便をおかけする状況を可能な限り最小限に留めるため、これまで対応策を考え、事前の周知などにも努めてまいりましたが、それでもお叱りを受ける場面はあまたあるのではないかと考えております。

本当に、お許してください。

そのうえでお願いがあります。何の解決策にもなりません、折角ですから日曜日のひととき、沖縄や九州をはじめとする47の全都道府県から、また台湾や中国など海外からもお越しいただくランナーの方々に対し、沿道からご声援をいただけないでしょうか。

新たな四半世紀に向けて歩みを始めるこの函館マラソン。初夏の函館を彩る風物詩のひとつとして、また多くの皆様に親しまれるイベントのひとつとして今後も成長させてまいりたいと考えておりますので、皆様には何卒ご理解を賜りたく、どうかよろしく願いいたします。

～ 結びに ～

過去20回にわたり連ねてまいりましたこの駄文、今回で最終回となります。先述したとおり、函館市でのマラソンは、平成3年の「函館ハーフマラソン大会」を契機として、これまで四半世紀にわたり継続開催されてまいりました。

私事で恐縮ですが、思い返すに首も据わらぬ生後2か月の身で湯の川温泉街の沿道から第2回函館ハーフマラソン大会（平成4年開催）を応援した我が長男、その後すくすくと成長し今では貧乏院生となった彼ですが、このたび首都圏からわざわざ友達やヒゲの生えてない友達？など計6名で「函館のフルマラソンに参加するから～」との一報が（※なお息子のタイムは5時間をぎりぎり切る程度、ヒゲが生えてない方の友達はサブ4で入賞経験もあるとのこと）。それはさておき…年月の長きと、その流れの早さには本当に驚きを禁じ得ませんね。

結びに。

函館マラソン開催までの道程は平坦ではありませんでした。ただ、そうした中であって目の前の登り坂や下り坂を削ったり嵩上げして走りやすい道に仕上げてくれたのは、道南陸上競技協会の皆さんの「知見」であり北海道警察の皆さんの「ご支援」であり、さらに函館マラソン大会警備協力会の強面なお父さん達の「タフネスさ」であり函館市町会連合会さんをはじめとする2千5百名を超えるボランティアの皆さんの「篤志」であり北海道新聞社の皆さんの「発信力」、そして北海道並びに函館商工会議所の皆さんの「有言実行」と、何よりも函館商工会議所青年部の皆さんの「ぶれない心」だったのであります。

このように多くの人々が介在してつくり上げられたこのたびの「函館マラソン」。

参加皆様にはマラソンと初夏の函館の魅力を存分にお楽しみいただければ幸いに存じます。そしてこの取り組みが次の四半世紀、そのまた次の…と永く続けられるように、皆様、これからも生涯スポーツたるマラソンを末永くご満喫いただくとともに、とりわけ函館マラソンに対しましては、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

（文責）

函館マラソン大会実行員会事務局課長

（函館市教育委員会生涯学習部フルマラソン担当課長）

池田敏春